

安全、安心な病害虫防除技術の開発

病虫研究室

令和 6 年度の主要な研究課題の概要

『気象変動に対応したナシの高品質果実生産技術の開発』（R2～6）

ナシ黒星病防除のため、落葉時期に合わせた防除体系を普及していますが、気象変動により落葉時期が遅れ、秋季の防除適期を外していることが懸念されています。また、本病の特効薬である DMI 剤により発生を抑えてきましたが、本剤の多用により、将来、DMI 剤耐性菌発生の恐れがあります。

本課題では、①秋の気象変動に適応し、かつ DMI 剤等に依存しない新たな防除体系の開発と、②薬剤耐性菌モニタリングのための新たな検定法を確立します。



ナシ黒星病による
果実の被害

『促成栽培トマトにおける天敵タバコカスミカメを用いたコナジラミ類総合防除技術体系の確立』（R5～8）

トマトのウイルス病を媒介し、すす病を引き起こすコナジラミ類は、薬剤抵抗性が高度に発達し、農薬による効果的な防除が難しくなっています。

本課題では、本県トマトの主要作型である促成栽培において、近年農薬登録された天敵「タバコカスミカメ」を用いたコナジラミ類の総合防除体系（IPM 体系）を確立します。

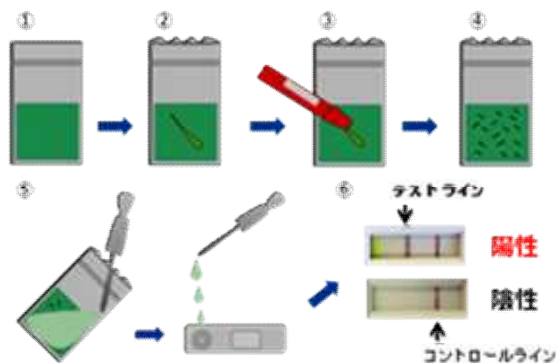


害虫タバココナジラミ(左)と
天敵タバコカスミカメ(右)

令和 5 年度の主な成果

ウリ類退緑黄化ウイルス（CCYV）の簡易検査キットの開発と迅速診断

メロンやキュウリなどのウリ類では、CCYV による退緑黄化病が発生し、品質や収量の低下が問題となっています。今回開発した検出キットを使用することで、生産現場での CCYV の早期診断が可能となり、発病株の抜き取りや媒介虫の防除等により本ウイルスのまん延を防止することでウリ類の安定生産に寄与できます。



簡易検査キットの使用方法和判定

土壌還元消毒によるニラ黒腐菌核病の防除

ニラのハウス栽培では、土壌病害である黒腐菌核病が発生し、収量低下が問題となっています。本病に対し、5月下旬から1ヵ月間、土壌還元消毒を行い、土壌中の日平均地温を 30℃以上に保つことにより、黒腐菌核病菌の菌密度を減少させ、次作での発病株率が低下することを明らかにしました。



土壌還元消毒後の黒腐菌核病の発病差異
(手前：土壌還元消毒あり、奥：消毒未実施)

今後の方向

- 減農薬防除技術に低コスト技術や省力化技術を加え、農家が導入しやすい技術を開発します。
- 難防除病害虫や新規病害虫に対する、効果的な防除技術を開発します。